

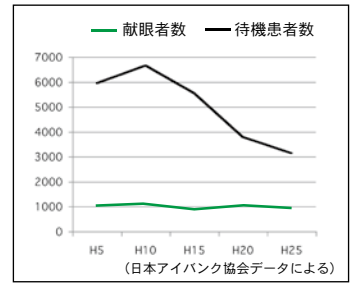
## 献眼がもたらす希望の光



### アイバンクについて

全国の献眼者数と待機患者数の推移

年度	献眼者数	待機患者数
H5	1012人	4930人
H10	1070人	5582人
H15	882人	4661人
H20	1010人	2769人
H25	927人	2207人



**議員**  
アイバンクとは、ドナー（角膜を提供する人）とレシピエント（角膜移植を待つ人）の架け橋の役目をしているところで、角膜銀行とも言われている。茨城県では1982年に設立され、現在までに角膜提供者が530名を数えたと聞いている。角膜移植を心待ちにしている人は、全国で2217名（26年4月時点）いる。当市には、目の自由な人は何人くらいいるのか。また、献眼について市では現在どのような取り組みをしているか。さらに今後どのように取り

組んでいくのか。

### 保健福祉部長

27年2月現在で1227名の方が視覚障害の手帳を持っており、うち65歳以上の方が全体の約7割を占めている。市内のライオンズクラブが各種イベントや献血会場などで普及活動を行っている。市では、庁舎や保健センターなどにアイバンクのパンフレットや臓器提供意思表示カードを置いてある。こういったものをお示ししながら、啓発活動をしている。今後は、国・県を含めて、臓器提供意思表示カード並びに臓器移植に関する普及や広報活動を進めていく。

### 議員

角膜提供は、アイバンクに登録していても家族の同意が得られなければ提供できない。提供してもらいたい人はたくさんいるが、なかなか実現には至らない。やはりライオンズクラブの活動だけでは目標に達することが難しい。もっと市としても啓蒙活動をしていただきたい。今、市役所の外構工事をやっているが、目の自由な人への配慮はしてあるのか。

### 保健福祉部長

点字ブロックを設置するということを進んでいる。



## 出産難民を出さないために

### 産婦人科の新設について

### 議員

市役所に来たある若い夫婦は、常総市に産婦人科がないと聞いて、違う市に転入するというところで帰ったそうだ。常総市、坂東市、つくばみらい市には産婦人科がない。妊婦の方々はどこへ行ったらいいのか。広域的に3市で運営するとか、きぬ医師会とタイアップしたらどうか。

### 保健福祉部長

3市できぬ医師会病院運営協議会を通じて産科の開設を現在も強く要望している。きぬ医師会自身も重要課題と認識をし、さまざまな方面へ呼びかけをしているが、まだ実現に至っていない。医師確保のための補助金や医師育成への援助金などを考える時期にきているのかと考えている。

### 議員

産婦人科があれば人口減に歯止めがかかる。産婦人科の新設は喫緊の課題である。一気に産婦人科のドクターが無理ならば助産婦の制度も取り入れたらどうか。また、ドクターを呼ぶの

### 市長

にお金が足りないならば、そういうときに補助すべきである。3市の市長が運営協議会で産科の設立を強く要望しており、具体的に話が進んでいる。まだ公表はできないが、具体的な人選も始まっている。

### 議員

そこまで進んでいるとは知らなかった。明るいニュースだ。ただ、きぬ医師会も補助をもらう体質を脱皮し、自ら産婦人科を設けるような企業努力が必要である。産婦人科があれば、住民も安心して住める。医師不足といっても産婦人科をやっているところは沢山ある。こういうところにお金を使うのなら誰も文句は言わないだろう。

※つくばみらい市には産婦人科はないが助産院が1カ所ある。

